

ユーザー業務体験研修に参加しました

水資源機構では、今後の水資源機構の中核を担っていく若手職員が利水者の視点を理解し、将来の業務遂行の礎とすることを目的とした、体験型研修を行っています。

当建設所においても、昨年10月から11月にかけて、新規採用職員を対象とした「農家体験研修」と、入社3年目の職員を対象とした「水道業務体験研修」に、それぞれ2名ずつ参加しました。研修先の利水者が農業従事者と水道事業者という違いはあるものの、機構が供給する水を使うという点ではかわりはなく、2つの事業を担う機構の役割は想像以上に重要であることを再認識しました。

参加した職員は、この研修を通じて、「安全で良質な水を安定して安くお届けする」という経営理念のもと、これからも効率的な業務運営に努めるとともに、あらためて利水者をはじめ国民のニーズに的確に応えなければならないことを銘記しました。

◆農業体験研修



農業体験研修では、茨城県坂東市及び群馬県前橋市の受益農家に滞在し、レタスや水菜などの収穫といった農作業を体験しました。この体験を通して、農作業の厳しさ、水の安定供給の大切さを痛感しました。

◆水道業務体験研修



水道業務体験研修は、埼玉県企業局吉見浄水場で行いました。同企業局は、水道用水供給事業において、給水人口、総水量が全国一位です。研修では主に飲料水を造るための浄水過程を勉強しました。この研修を通して、浄水場の職員の方々のご苦勞はもとより、あらためて良質な水の供給の重要性を認識しました。

環境保全の取り組みについて

思川開発建設所では、機構職員の環境に対する意識と知識の向上、工事や調査の関係者への環境保全に対する意識の啓発を目的とした環境学習会を開催しています。今回は、2月に行った環境学習会について紹介します。

◆環境学習会

平成22年2月10日に開催致しました環境学習会は、宇都宮大学農学部森林科学科教授の久保達弘先生をお招きし、「栃木の里山の魅力と課題」について、ご講演いただきました。

環境学習会は栃木県や鹿沼市等の行政機関、工事・調査関係者の方々にも参加していただき、思川開発建設所職員と併せて60名程の参加者となりました。

里山とは、奥山自然地域と都市地域の間位置し、多様な自然の恩恵を人間が受けることができる地域であり、我々は長年それを枯渇させないための伝承知を受け継いできましたが、人々の産業構造の変化にともない、里山が減少する傾向にあり、未来の里山の活性化に向けて、どのような取り組みを行っていくかという内容です。

里山について、新たな認識を与えられる講演会となり、その後の質疑応答においても、活発な議論が交わされました。

また、環境学習会の当日は、隣接する会議室に「展示コーナー」を設け、思川開発事業の環境保全の取り組み内容の説明、事業用地内で採集した昆虫標本の展示、撮影された動植物の写真・ビデオの展示などを行いました。特にオオタカが子供に餌を与える状況やムカシヤンマのヤゴがえさを捕まえる状況を紹介したビデオは、多くの方が熱心にご覧になっていました。



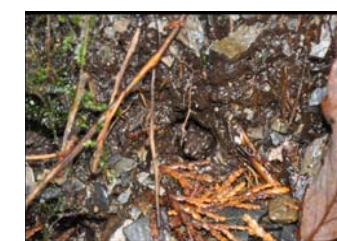
里山について、熱心に語られる久保先生



環境学習会に合わせて設置した展示コーナー



ヒナにえさを与えるオオタカ
(平成21年撮影)



土の中で生活し、顔を出し、エサが来るのを待つムカシヤンマのヤゴ(平成21年撮影)



ムカシヤンマ成虫
(平成20年撮影)

以上のように思川開発建設所では、豊かな生態系を維持できるよう様々な取り組みを行っています。

なお、思川開発建設所では、事業の実施に伴う影響予測・評価・保全対策などをとりまとめた「思川開発事業における環境保全の取り組み」を公表しております。詳しい内容は思川開発建設所のホームページをご覧ください。